



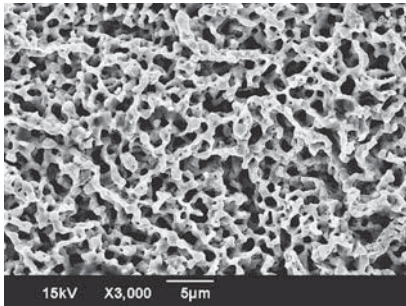
発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円+税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2016

2月10日
(水曜日)

異材接合の化学的表面処理

日本パーカライジング 車載用に展開

日本パーカライジングは、異材との接合に用いる金属の化学的表面処理技術を車載部品向けに展開する。従来の建材用途に加え、マルチマテリアル化が進む自動車分野にも焦点を当てていく。サンドブ



ラストなどの物理的な処理に比べ、高精度かつ生産性を向上できる技術として部品メーカーに採用を促す。

同社の化成表面処理「ケミブラスト」は、リン酸塩やソクロメートなどの化学品によって金属の表面に微細な凹凸を形成し写真した後、薄膜のコーティングを施すことで異材との接着力を高める技術。研磨材を使う物理的なブラストよりも粗面の均一性に優れ、複雑形状の基材にも対応できる。衝撃を与えると歪みや変形の恐れがある超薄型の鋼板やアルミなどの軽金属にも処理が可能だ。既存の車

載用途では、ブレーキパッド用プレートのシューとの接合面などに使われているケースがある。

最近では、車載部品の金属の一部を樹脂に置き換えること

で重量を低減するマルチマテリアル化に注目が集まっているが、両素材の接着強度をいかに高めるかが課題となっている。特に、サンドブラストマシンに収まらない大型部品や絞り形状を持つデリケートな部品は、物理的な表面処理に手間がかかるのが現状だ。こうしたニーズを捉え、化学技術を応用した最先端のブラスト技術を売り込んでいく。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

(a) 鉄/樹脂（PPS）インサート成形試験片の外観写真：引っ張り試験後樹脂破壊

(b) ケミプラスト処理した鉄の SEM 写真：微細凹凸構造

